

子どもを信じ、待つ

河野美加

10月下旬より、後期ありんこサークルが始まりました。後期ありんこサークルは、来年4月の入園を決められた方々のサークル活動となり、改めまして、数々の幼稚園の中から錦江幼稚園を選んで頂いた皆様に感謝致します。ありがとうございます。

さて、後期のサークル活動が始まってから1ヶ月余り。2歳児クラスにとっては、前期から引き続きの方も、後期から初めて参加する方も、みんながまた新たな環境でのサークル活動となっていますが、大好きなお母さんに見守られて、それぞれのペースで、自分の居場所ややりたいことを見つけ過ごしているように思います。

そして3歳児クラスは、すっかり、サークル活動にも幼稚園にも慣れたもの！！といった感じで、遊びを通してお友達や担当の職員との関わりをますます深めているように見えます。

子ども達のまっすぐな眼、懸命な姿を私はいつも子ども達と関わる毎日の中で感じます。子ども達が見せる姿の内には、必ず各々の気持ちがあります。泣いたり、笑ったり、怒ったり、恥ずかしがったり、戸惑ったり・・・精一杯に自分を表している子ども達の姿は本当に愛おしいです。一方で、その場の雰囲気やドキドキしたり、泣いてしまったり、集団での活動や用意されている活動に取り組みづらい様子を目にすると、心配になったり、歯がゆく思ったりして、集団の場に入れようと強く勧めようとすることもあるかもしれません。それは子どもを想う気持ちがあるからこそこのことです。しかし、子ども達がそのような姿を現すにも、理由や気持ちがあります。私はその気持ちや理由を考え、そして寄り添い、共感し、励ましていける保育者でありたいと思っています。

ありんこサークルに通うお母さんが、幼稚園で用意していた製作に取り組んでいる我が子を見守りながら、こう話されました。「お兄ちゃんの時は、こうはできませんでした。（しなければならぬ、やってほしいという願いもあって）私が懸命にやっちゃってしまっていて・・・、今、やっとうこうして（落ち着いて）見れるようになりました。」と・・・。また別のお母さんも第1回目の合同ありんこサークルを終えた後に、「前期のありんこサークルがあったからこそ、今の姿（やりたいことを見つけて黙々と遊ぶ姿）があるんですね。」とお話して下さいました。

そして、後期ありんこサークルが始まってから、特に前期から引き続いて来てくれているお友達が、私と目を合わせてくれることが多くなったり、笑顔を見せてくれたり、「バイバイ！」と手を振ってくれたり、話しかけてくれたり、手を繋いでくれたりします。

その時の現状や雰囲気にとドキドキ（緊張）したり、躊躇したり、硬直してしまっ
て遊びづらくても、その場の中に入りづらいことがあっても、子ども達は、立ち止
まりながらも、その時々環境を感じ、触れ、目の前にある物事を見て、また、考
えて、心を動かしながら、それぞれのペースでしっかりと、必ず前に向かって進ん
でいきます。それは、子ども自身の力ももちろんありますが、絶対的な信頼関係で
結ばれているお母さんやお父さんの暖かく深いまなざしや受容、共感、励ましも子
ども達が前を向いて進んでいける為の大きな原動力になります。

『子どもを信じて待つ』ことがとても大切なことなのだと、後期ありんこサー
クルを通して再確認させられたお母さんからのお話、そして、ありんこサークルのお
友達の姿でした。

ありんこサークルのお友達は、今、遊び（活動）を通して、お友達の存在を知っ
たり、自ら選択したり、考えたり、様々なものを見て、取り組んで（体験）みたり
していることと思います。そして、その中で心も動かし伴わせています。楽しかつ
たことだけでなく、時に悲しいことや思い通りにならない悔しさ、対人関係での難
しさに戸惑いを感じることもあると思いますが、これらの大切な実体験も含めて、
それぞれの『今』が一人一人の力や糧となり、自分もお友達のことも大切にできる
ことへと繋がっていくことと信じて、これからもサークル活動を通して、幼稚園の
ことが大好きになってほしいと思います。

ありんこサークルの皆さんの4月からの幼稚園生活を心から楽しみにしていま
す！！